

1 Bp-7 (P) 親子関係を支える補助自我の役割—心理劇による危機状況の探究—

○黒田淑子 野並美雪 神井知子 榊田智子

(お茶の水女大)

目的 この研究は、変動する家族の問題を、親子関係を軸に重層的・動態的に探究していこうとするものである。子どもをとりまく生活環境は今大きく揺れ動いており、親子関係にもさまざまな危機が生じている。この研究においては、心理劇を活用し、親子関係のA. 形成・展開過程及びB. 転換・変容過程の危機状況を変えるきっかけとなる補助自我の役割について探究し、日常生活における市井の補助自我の視点から、これからの家族の在り方について考究する。

方法 Morenoによって創始された心理劇は、さまざまに活用されてきており、日本でも、1950年代から、外林、松村、台、増野らによる実践研究が重ねられ、1995年12月には日本心理劇学会が設立された。この研究では、日常生活での実践研究方法としての独自の展開を試行し、いくつかの心理劇、つまり具体性、仮説性、予測性の心理劇を組み合わせて、日常生活のフィールドワーク、危機状況の解明、問題解決の可能性の開発を行う。

結果 日常生活の問題に連なる心理劇：A. 形成・展開過程における役割関係の固定化、二者択一的なかかわり方、関係の希薄化などをめぐる心理劇、B. 転換・変容過程における自立をめぐる葛藤、学校・社会との関係の相剋、家族との離別などをめぐる心理劇を通して、次のような補助自我の役割が明らかになった。内接的なかかわり方の具現化あるいは役割の交代・回転により、父、母、子、その他の家族それぞれの主体的な生き方を支える；2者の関係に第3者として「間」関係的にかかわり、柔軟な親子関係への転換をはかる；内と外との関係の通路を開く、あるいは一方的でなく相互的な関係への媒介的な役割を担うことにより、家庭、集団、地域社会にひろがる自立と支援の関係づくりを補助する。